



森のなかま

2023年 6月号

NO. 180 (継続325号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

やどりき事業部会

「やどりき周辺 自然観察 最明寺桜三昧ハイキング」

場所:新松田駅～西平畑公園～最明寺

日時:2023年4月8日(土)

インストラクター; リーダー上宮田⑩、水口⑨、河西⑮、飛田⑮、小池⑰

< 小池 宗子⑰ 写真 インストラクター >

“山笑う”前夜の雨に洗われて、木々の若葉は柔らかく、山はゆったりとした佇まいをみせていました。この日は、松田町役場から西平畑公園を経て、最明寺史跡公園を往復する移動距離8Km強、標高差約400mのコースです。



松田山から望む雪の富士山も静かに微笑んでいるようでした。眼下には、伊能忠敬測量隊が歩いたルートが走り、当時の測量技術に思いをはせました。

午前10時、ミニチュアアロマンスカーの出発進行の汽笛に励まされて本格的な山道に入ります。行く手には、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、キュウリグサ、ヤマネコノメソウ、ショカツサイ、キランソウ(別名ジゴクノカマノフタ)・・・珍名さんが大集合。ハーブガーデンでは、淡い海の色をしたネモフィラ畑に息をのみました。ヒノキ林の斜面では、シャガの群生がまるで白い蝶が何万羽も羽を広げて休んでいるようでした。また、その葉陰に、7人の小人が潜んでいそうなシラユキゲシの群生もありました。ウルシの中の最強のツタウルシの前は、みんな遠巻きに恐る恐る通りすぎました。いくつか急坂もありましたが、最年少の小学2年生も山ガールデビューしました。時おり吹く山の風が汗ばんだ体を通り抜けて行きました。(ああ、この風が大好き!)道中、上を見上げると紫のア



オリエンテーション



ヤマネコノメソウ



シラユキゲシ



アロマンスカーの出発進行の汽笛に励まされて本格的な山道に入ります。行く手には、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、キュウリグサ、ヤマネコノメソウ、ショカツサイ、キランソウ(別名ジゴクノカマノフタ)・・・珍名さんが大集合。ハーブガーデンでは、淡い海の色をしたネモフィラ畑に息をのみました。ヒノキ林の斜面では、シャガの群生がまるで白い蝶が何万羽も羽を広げて休んでいるようでした。また、その葉陰に、7人の小人が潜んでいそうなシラユキゲシの群生もありました。ウルシの中の最強のツタウルシの前は、みんな遠巻きに恐る恐る通りすぎました。いくつか急坂もありましたが、最年少の小学2年生も山ガールデビューしました。時おり吹く山の風が汗ばんだ体を通り抜けて行きました。(ああ、この風が大好き!)道中、上を見上げると紫のア



アケビの雄花(左)雌花(右)



アミガサタケ

ケビの花も。こんなにあったら秋にはどれだけ結実するかと想像は膨らみます。「秋になったらアケビを採りに来ようね」と山ガールを誘うと、彼女はあどけなく上を見て、秋の収穫に想いを寄せていたに違いありません。ハンターの目を持っている参加者は、アミガサダケやスカシダワラを発見して興味津々。



最明寺の山は、桜色のグラデーションで奈良の吉野山を思わせました。山は少しずつ葉桜に移ろい、今回、参道や池のほとりは八重桜が見ごろを迎えていました。関山、鬱金、手弱女(たおやめ)、京舞子(ネーミングもキュート)白菊桜…北条氏の信仰が厚かった当時の隆盛を物語っていました。ランチタイムは、思い思いに公園を散策しました。人は、桜を見るとどうして優しい顔になるのでしょうか。他の花見客もいましたが、静かに桜を楽しんでいるのが印象的でした。歩いていくのは大変ですが、大変だからこそ喜びは大きい。

さて、山歩きは下りが肝心。定期的に休憩を取り、疲れた足を騙しだまし降りてきました。途中の売店の桜餅ソフトクリームで英気を養い、はっさくやぼた餅をお土産に買いました。国道246や高速が見えるとゴールはもうすぐです。松田役場の向いの藤棚の下に地下から湧き出る延命水がありました。ひと汗かいた体に地下水でつかの間の涼を楽しみました。参加者との会話のキャッチボールも楽しく、「次回、6/3のイベントはどこいくの? また行きたい!」とインストラクター魂をくすぐる言葉もいただきました。最後の道くさを食って、新松田駅前のお肉屋さんで買ったコロツケは、帰宅後のビールのお供になったことでしょう。まさに桜三味♥この春から、最明寺史跡公園を“湘南の吉野”と命名いたします。前述の山ガールが自然や山に興味を持って成長することを願って・・・
“山笑う”人も笑顔になった1日でした。



2023 年度普及啓発部会 環境教育・キャンペーン活動等の指導者育成のための研修会

1. 日時・場所：2023 年 4 月 16 日(日) 9:30~15:00 やどりき水源林広場・集会棟横
2. 指導者：環境教育(足立④、松本⑩)、クラフト制作(森本⑤、内野⑨、高橋恒通氏)
3. 参加インストラクター：24 名(指導者を含む)
4. 目的：①森林環境教育において、樹木や森林が持っている役割について、実験を通して体験できるような進め方を解説し、指導者を育成する。
②ネットワーク活動やキャンペーン活動等で、クラフト制作の催しが広く行われており、これら活動の指導者を養成する。(ノウハウ、注意事項の伝授)
③新しい活動メニューの開拓

(記 大谷 雅彦⑰、写真 飛田 尚弥⑱)

やどりき水源林に着くと、目に飛び込んでくるのは木々の爽やかな新緑、耳に届くのは軽やかな鳥のさえずり、心地よい川のせせらぎ。日常の生活を忘れ解放された心地よい気分させてくれます。昨日の雨が嘘のように晴れ渡った青空の下、24 名のインストラクターによる研修が始まりました。

森林の持つ保水能力を簡易な実験で理解することが第 1 のミッションです。樹木が生え下草に被われた森林を模したプランターと、全く樹木の生えていない裸地を模したプランターにジョウロで水やりし、どのような色の水がどの程度、地表面と地下水から出てくるのかを確かめます。森林の持つ保水能力を簡易な実験で理解することができました。

木は光合成によって CO₂ を吸収し栄養を蓄え成長します。一本の木でどれくらいの量の CO₂ を吸収するのかを、木の高さ、樹種や幹の太さから参加者がそれぞれ選んだ木から算定します。木一本から吸収される CO₂ は、人や車が一年に排出する量と比較してどれくらいかを知り、森林が持つ CO₂ 吸収能力がいかに関与しているかを理解しました。



フィールドでの実験が終わると工作物(シュロバッタ、描けない鉛筆、ミニ下駄、葉巻笛)づくりです。経験者も未経験者も講師の説明を真剣な眼差しで工作作りに挑戦です。それぞれがそれなりの工作物に仕上がったようでした。インストラクターとして子供達に教えるまでは自己研鑽も必要だなと感じた時でした。講師となったインストラクターからは、松ぼっくりで作った湿度計、どんぐりを使った動物、竹を組み合わせた笛、林で拾った小枝などを使ったレリーフなど興味深い工作物の説明もありました。朝からの天気はますます回復し清々しい青空と真っ白な雲の下お昼をいただきました。

午後からはまた、フィールドです。この杉一本売ると東京ディズニーランドに何回行けるかなあ?と言った質問でフィールドに出ました。簡単な分度器と巻尺を使って杉の樹高と直径を測り換算表で立木体積を求めます。求めた体積に山元価格を掛け合わせて木の値段を出しますが、何十年も掛け育った立派な杉がこんな値段にしかならないの?これじゃ何本も売らないと東京ディズニーランドに行けない!なんと.....声になりませんでした。

最後にフィールドビンゴを使った自然観察会のやり方を実地を兼ねて教えていただきました。天気にも恵まれ心地良く一日の研修会が終わりました。インストラクター講師の方々ありがとうございました。今度は自分達が先輩達のように教えられようとなろうとそれぞれが心に誓ったはずです。

盆栽見学会 ～圧倒的美意識と極限技巧の世界に触れて～

1. 日時：2023年4月8日(日) 9:00～13:30 曇
2. 場所：さいたま市 大宮盆栽美術館・盆栽村
3. 参加インストラクター：15名（指導者を含む）(L 石井⑮、小松⑭、佐々木⑮、小野⑦、小俣⑰、田島⑰、内田⑰、埴原⑮、水上⑬、内野⑨、真貝⑪、祐也⑯、小笠原⑩、菊地①、久慈⑯)

(記：久慈 真理⑯ 写真；久慈 真理⑯、石井 裕⑮)

いつもの森林管理や水源林理解促進活動から大きく離れ、今回は森林インストラクターとしての文化的素養を高めるため、大宮盆栽美術館と盆栽村を訪ねた。

盆栽といえば、松のくねっとした姿を思い浮かべがちだが、美術館のロビーで最初に出会ったのは、半懸崖（鉢の高さぐらいまで垂れ下がったもの）のコマユミ。まだ瑞々しくやわらかい葉が風に揺られているような姿に、みんなで「きれー」連発、一気にテンションが上がった。

展示室では、盆栽の鑑賞の仕方やその種類がパネルで丁寧に説明され、初心者にも基礎がしっかり学べる仕組みとなっている。更に、一席（盆栽は“席”で数えるらしい）毎に、音声で解説する“盆美eガイド”を聞くことで、目の前の盆栽のすごさの理由を知ることができた。

続く盆栽庭園では1.6mにもおよぶ大きな盆栽に、“盆栽”の概念が覆っただけでなく、杉・ヒノキ・欒や椿など様々な樹種があることにも、どれほど長く時の権力者や庶民に愛され、期待されてきたのか分かった気がした。

(海外の方にも BONSAI ファンが多いことは聞き及んでいたが、当日、美術館にも多くの外国人の方がいらっしや、世界に通じる美意識と技巧なのだたと嬉しく感じた。)

盆栽村には、趣向が違ふ盆栽園（個人で経営されている盆栽園）が5園あり（藤樹園、蔓青園、清香園、芙蓉園、九霞園）、グループに分かれて、それぞれ園の方にご説明を頂きながら、更に多くの種類の盆栽と育て方の“方針”を学ぶことができた。（ある園でお話をお聞きしている時のこと、ある松のことを指して「こいつはもう40年ぐらい見ている」というご発言があり、たぶん、ひとつひとつの盆栽はすでに家族なんだな、毎日見て、対話しているんだなと感じる場面もあった。)

今回は、達人の技に感動するシーンが多かったが、盆栽も元は植生地が育てたもの。我々が力を注ぐ元気な森が未来の名品盆栽を育てている。自然と美意識と技巧。これからも大切にしていきたい。



ロビー コマユミ



久慈イチオシ 白樺の盆栽



森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

マツはスギやヒノキと同じようにわが国では身近にみられる木の一つです。庭園樹、街路樹としてよく見かけ、また門松や盆栽としても利用されています。マツ属は世界におよそ100種存在しますわが国で広く分布しているのはアカマツ、クロマツです。アカマツは山間部に分布し、尾根筋などによく見かけます。クロマツは海岸近くに分布し白砂青松の景勝地をつくり、また砂防林として植林されています。秋田県能代市の海岸にある日本一の広さを誇る「風の松原」や佐賀県の「虹の松原」など海岸の激しい飛砂を防ぐ砂防林として、また、天女伝説の「羽衣のマツ」の三保の松原や天橋立など、景勝地のマツとしても知られています。

アカマツ林に生育するマツタケ、クロマツ林での松露など、美味しいキノコが育つ環境を作っているのもマツです。

戦時中には航空機燃料としてマツの根株を乾留して松根油の採取も行われましたが実現には至りませんでした。マツの幹を切りつけて滲出するマツヤニを採取し、ロジン、テレピン油を取ることも戦前には行われていました。

テレピン油はペイント用溶剤、樹脂原料などに用いられ、ロジンは紙サイズ剤、合成ゴム乳化剤、弦楽器の弦の滑り止めなどに用いられますが、テレピン油は日本薬局方の医薬品にも指定されています。合成品の代替品が出回る現在、マツヤニ採取はわが国では行われていませんが、天然成分の特長を生かした利用に今でも採取している国はあります。

テレピン油の主成分は、 α (アルファ)-ピネンという揮発性の香り成分です。新緑の頃にマツ林を歩くと少しヤニ臭くもあるが新鮮でさわやかな香りが漂います。その香りの主体が α -ピネンです。 α -ピネンは多かれ少なかれ多くの木に含まれていて香り成分の中でも最も揮発性の高い成分に属しますので森林の香りのもととなっています。そして α -ピネンはマツに最も多く含まれています。森林歩行ではストレスがやわらがりフレッシュします。森林が放出するような低濃度の α -ピネンのもとでは血流を促進し、ストレスをやわらげる働きがあることが分かっています。

α -ピネンの香りのもとでは睡眠効率を向上させることも最近分かっています。寝つきがよくなり、中途覚醒時間も短いので総睡眠効率が高くなります。

第51回 マツの成分の働き

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

中国では松葉の香りががんの抑制に効果があることが知られ、民間薬として使われてきました。最近になりその効果が科学的に証明されています。マツの葉を蒸留して得られる精油に肝臓がんを抑制することが分かったのです。そしてその有効成分がマツ葉の主要成分である α -ピネンでした。

マウスにヒトの前立腺がん細胞や肺がん細胞を移植した場合も α -ピネンで処理した場合にはがん細胞の増殖が抑えられたという結果が出されています。

マツの葉をお茶として飲むと高血圧の予防となり、滋養強壮作用があり、また食欲不振や咳止めに効果があると民間で言われてきました。マツヤニの樹脂成分を化学処理した成分には抗潰瘍作用があり医薬品として利用されています。

身近に存在するマツですが多様な働きがあるのです。

以下、参考

松根油 (しょうこんゆ) は、マツの伐根 (切り株) を乾留することで得られる油状液体である。広義にはテレピン油の一種であるため、**松根テレピン油**と呼ばれることもある。太平洋戦争中の日本では航空用ガソリン (航空揮発油) の代替物としての利用が試みられたが、非常に労力が掛かり収率も悪いため実用化には至らなかった^[1]。

しばしば樹脂 (松ヤニ) の抽出物である一般のテレピン油と混同されるが、松根油は一般のテレピン油とは材料及び製法が異なる。現代の一般的なテレピン油は松ヤニを水蒸気蒸留して得るが、松根油は松ヤニを経由せず松の伐根を直接乾留して得るものである。しかし戦時中には燃料不足の対策として松ヤニから燃料を得る計画もあったことから、しばしば混同されている。戦前は専門の松根油製造業者も存在し、塗料原料や選鉱剤などに利用されていた。昭和10年頃の生産量は6,000キログラムほどであった。



戦時中に皮を剥ぎ松脂油採取跡の説明板 長野県上田市にある。

- ・次(第52)回の森のめぐみの掲載は8月号になります。
 - ・7月号に谷田貝様執筆本の紹介(再)を致します。
- 『100年人生に"草木のめぐみ"』と
『木竹酢液ハンドブック 特性と利用の科学』

活動短信

今回の掲載はR5年2月18日からR5年4月20日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

6月(水無月)(旧暦5月皐月)の 二十四節気と雑節、鎌倉の田んぼ

二十四節気：芒種6/6 夏至6/21

雑節：入梅(6/11)梅雨の始まる日。気象庁を悩ませる梅雨が始まる日は、**梅雨入り**です。**田んぼ**では田植えを行い、例年多くの人でにぎわいます。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、**本文を概ね400字前後を目安**として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 第20回 県民参加の森林づくり(除伐)

日 令和5年2月18日(土) 9:30~12:00、快晴

場 川崎市多摩区菅北浦 菅北浦特別緑地

参 41名

財 倉野様、藤本様 **看** 佃様

スタッフ 伊勢原市農業振興課 主事岡村様 他 3名

用具配備 神奈川県森林組合連合会様

イ L 内野⑨、大岡⑮、杉澤⑯、飛田⑮、小国⑰、

大橋⑪、田島⑰、野村⑱、鶴田⑰、真貝⑪、三好⑰

昨年は現地状況により中止となった菅北浦特別緑地での「県民参加の森林づくり」が、2年ぶりに好天のもと開催されました。

現地は多摩丘陵の南側に位置し、JR南武線稲田堤駅から徒歩約15分、同駅舎が改装工事中で駅前も狭いため現地受付とし、道中にインストラクターが立ち参加者を誘導しました。

迷子になる方もなく参加者全員が現地に到着し受付、続くオリエンテーションも滞りなく行い、道具を装着した

後、班ごとに作業場所に向かい、除伐作業を開始しました。

除伐対象は、ササ、低木、灌木で、特に1~2班が担当した場所にササが広範囲に繁茂し、時間内の完了が危ぶまれたところで、早めに作業を終えた4~5班が応援に現れ、協力して全ての作業場所の除伐を完了できました。

また、2班の作業場所には絶滅危惧種のタマノカンアオイが群生していて、何と少しでも保護するべく、これを避けての除伐作業となり、時間はかかりましたが、目的意識を持った作業となりました。

12時頃作

業終了、各班ともに予定とおりの成果をあげ、かつ怪我無く作業を終え、参加者各自達成感を持っていただけたようでした。

なお、今回は「かながわ緑の大使」として高校生の方も作業に参加、いっそう和やかな活動になりました。

(記 小国 一男⑰ 写真 内野 ミドリ⑨)

◆ アコム株式会社 アコムの森
— 枝打ち作業 —

日 令和5年3月5日(日) 10:15~14:45 晴れ/曇り

場 21世紀の森

参 26名

県 水源環境保全課 武田様、岡本様

イ L 大友⑯、松本⑮、中鉢⑰、森本⑰

今回で3回目の「アコムの森・枝打ち作業」が実施された。社内会議の場で、上層部の方から「もっと長い時間活動したら」との声が上がり、今回は昼食をはさんで、十分な活動時間を確保して開催された。参加者26



名のうち約6割の方が初参加者でした。

インストラクターは9時15分に現地集合し、現場下見と作業実施の流れを確認後、集合場所に戻るとマイクロバス2台がタイミング良く到着した。アコム様の到着後、駐車場下の広場で、開会挨拶/体操と作業説明を行い、インストラクターがフォローしながらアコム様主導で装備道具を準備し、班ごとに現地へ移動した。今回の活動場所は「H26成長の森(2)エリア」で、活動場所まで急登であり、途中一息つくタイミングで、H25～H31までの杉の木の成長の違いを説明し、観察してもらいながら移動した。



今回の活動は3班体制で実施。各班の担当インストラクターが責任持って、枝打ちの指導を行いながら、作業を通じて枝打ちの意義を参加者に伝えた。作業場所は足場が確保しにくい急斜面であり、インストラ

クターは足下注意を呼びかけて作業を指示した。午前中は初参加の方は、作業に慣れずに切り残し(出べそ)がある状況だったが、二度切りで丁寧に仕上げることを伝えると、午後の作業では、作業効率も上がり、かつ綺麗な仕上がりになりました。さらに最後は全員で作業エリアの切り残しをチェック。参加者の皆さんは真剣に杉の木と触れ合い、切り残し(出べそ)を見つけて綺麗に処理していただきました。

活動終了後、参加者の方からは、「作業前後で日光の入りが違い、すごく達成感を感じた」、「立ち位置の違いで切り残しを改善でき、綺麗に作業できるとうれしくなった」との声があり、今後のアコム様の活動も軌道に乗って活性化していくことに期待が持てました。

(記 森本 利弘⑰、写真 大友 博道⑱)

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

人も自然も
いきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 株式会社カナエル 竹林整備作業

目 令和5年4月20日(木) 10:00～12:20 晴

場 21世紀の森 竹の展示林

参 大人17名

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 岡田様、岡本様

イ L 牧石⑲、岩田⑳

4月20日(木)「株式会社カナエル 竹林整備作業」を実施しました。集合場所の21世紀の駐車場より参加者全員で神代杉前に移動、スケジュール通り10時～開会式、県担当者挨拶、インストラクター紹介、準備体操を行ったのち参加者の皆様に協力していただき倉庫より用具を搬出し、用具装着後、竹の展示林に移動。参加者17人が安全なスペースを確保したのち一斉に作業に入った。11時に約10分間の一斉休憩を取ったのち11時50分まで作業を実施した結果、幅約15m、長さ約50mが見通せるまでに竹林整備ができた。

活動終了後広々となった竹林をバックに記念撮影後、



用具倉庫前に移動し、用具の整備、倉庫に用具返却後、皆様より感想を聞かせていただいた。「周囲が明るくなり気持ちが良い」「楽しく作業ができた」等の感想をいただき無事終了した。(記、写真 牧石 稔⑲)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

森の案内人が土日に案内をしています。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

「水源林ニュース」

5月号「春“らんまん”新緑と花の回廊 やどりき水源林」を発行しました。こちらからご覧ください

http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news203.pdf



イベント紹介

2023年度第一回森林探訪 募集中

<鶴ヶ峰駅からふるさと尾根道緑道に行く>

開催日：2023年6月24日(土)
 参加費：1,500円
 集合：相鉄線鶴ヶ峰駅改札口前 9時30分集合
 解散：よこはま動物園ズーラシア入り口14:30頃
 概要：鶴ヶ峰駅から、帷子川親水緑道、白根公園、ふるさと尾根道緑道など、緑豊かな緑道や公園を巡りながら、ズーラシアをめざします。
 歩行距離：約8.5km 標高差はあまりなし
 持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、虫除け
 定員：50名(申込順) 申込締切：2023年6月17日
 申込先：認定NPO法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会



e-mail : kanagawa_shizenkansatsu@yahoo.co.jp
 森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください
 問い合わせ：TEL 090-9875-3623 担当 松永

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

<電子配信企業等パートナー向け担当>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel : 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先：080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男

Mail: ka-oguni@ab.auone-net.jp

原稿は随時受け付けています。

● やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

● ホームページ : <http://www.ktm.or.jp>

E-mail : midori@ktm.or.jp

(かながわ)森林インストラクターの会

ホームページ [http://www.forest-](http://www.forest-kanagawa.jp)

[kanagawa.jp](http://www.forest-kanagawa.jp)

E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

編集後記

★ TVで『所さんの目がテン、林業ボーイズ広葉樹編』の番組を見ました。

一例ですが、針葉樹はまとめて入札、広葉樹は1本1本入札。

価格は(針) スギ1.8万円/m³、

(広) ミズナラ22万円/m³、

最近の最高値は東京大学演習林のマカバが200万円/m³で入札されたそうです。

他にも様々な情報がありました。その中で、需要は10倍位(針>広)違うとの事。

針は軽い、真直ぐ、加工し易い。広は重い、曲がり、固く加工しにくい、高い。等の理由で需要が少ないそうです。

但し、木目の美しさ、傷つき難い等で薄く家具や床板等に使用しているそうです。

(松本)

★連休中、神代植物公園で「タケの花」

を初めて見ました。種類はウンモンチク。

駆け付けた竹ファン(?)から、

「白い花かと思ったらまるで枯草ね」の声がしきり。確かにしよぼくれた稲穂のようにも見え、竹はイネ科なんだなあ、と感心しました。

120年に一度ともいわれる竹の開花。吉と出るか、凶と出るか。(竹内)

★皆様のおかげで、広報部別冊編集担当として約2年務めることが出来たことに感謝いたします。

小国一男さんに引継を致しました。わかりやすくスムーズな編集をして頂けるのでとても安心しております。

私はナショナルトラスト活動を牽引する、(公財)かながわトラストみどり財団と共に、大切な自然環境という資産を守る活動に、誇りをもって関わらせて頂きます。(小林)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人：黒川 敏史

広報部：松本保 笠原かずみ 長尾晴子 竹内明彦 小林照夫 小国一男 小池宗子

支援：大原正志 吉田郁夫